



WEEKLY REPORT No.1314

<本年度会長方針>

もっと知ってもらおう 我々の活動を

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
会長 田崎 雅三 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F  
幹事 丹下 富博 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008  
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org



第1540回例会

経済と地域社会の発展月間  
／米山月間

平成27年10月22日(木)  
於 名古屋東急ホテル  
出席計算数 57名  
51名中47名出席  
出席率 92・16%  
前々回出席率 90・20%

例年プログラム

- ★春日井社会奉仕委員長
- ・猿投の森法人会会員一案内
- ・介護施設訪問例会

★岡村国際奉仕委員

- ・海外例会(香港・深圳)
- 新聞掲載の報告
- 参加者への連絡

★卓話

「わらわらひまわり」

- 指揮者 春日井和良
- ピアノ伴奏 富板 玲子

「ゲスト」

愛知県がんセンター  
名誉総長 大野 竜三さん

「ニコボックス」

久しぶりに皆様にご会えるので楽しみにです。欠席ばかりですみません。

林 富徳

愛知県がんセンター名誉総長  
大野竜三様、卓話宜しくお願いいたします。  
田崎 雅三

丹下 富博・酒井 修  
高木 政義・岡村 隆徳  
リビング・ウィルとは何ぞや。愛  
知県がんセンター名誉総長 大野  
竜三先生をお迎えして。  
吉田 隆彦  
大野先生、本日よろしくお願  
います。 大原 敏正  
照井さん先日ありがとうございました。  
春日井和良

会長挨拶(歴代会長挨拶)

第16代会長(99-00年度)

小笠原和俊

「行動科学と事業継承について」



卓話

「リビング・ウィル」

愛知県がんセンター  
名誉総長 大野 竜三さん

高齢になって重い病気や重度の  
認知症に罹り、呼吸が出来なくな  
ったり、飲むことも食べることも  
できなくなれば、数日の内に静か  
に息を引きとります。しかし人工  
呼吸器を用いたり、胃ろう・鼻管



や点滴で栄養や水分を補給すれば、  
心臓が動くかぎり、いつまでも  
生き続けることは可能です。ほと  
んどの方は、そんな形で無理やり  
延命されるのは絶対に嫌だと考  
えていると思いますが、このよう  
な延命治療が、わが国の医療・介  
護の現場で日常的に行われている  
ことは衆知の事実です。

医療は尊厳ある生命をできる限  
り維持することを至上命令として  
おり、誰であつても生命を短くす  
ることはできません。医師も看護  
師もそのように教えられており、  
日本の社会や法律もそれを要求し  
ています。ですから、たとえ見か  
ねた家族が延命治療の中止を希望  
しても、医療側としても簡単に実  
行はできませんし、場合によっては  
法律で罰せられかねません。  
無意味な延命治療を止めること  
のできる唯一の方法は、患者さん  
自身が延命治療の中止を希望され  
その意思を表明されている場合で  
す。と云って末期の患者さんは、  
意識がなくなったり朦朧としてい

るのが普通ですから、そのような  
意思を表明することはできません。  
リビング・ウィルすなわち終末期  
の医療ケアについての意思表明書  
は、意識もあつた理性的判断がで  
きる内に、終末期において自分がし  
て欲しい、あるいは、して欲しく  
ない医療・ケアについての意思を  
表明しておく書類です。

欧米のように法制化されてはい  
ませんが、わが国の一流病院・医  
療従事者は、患者さんの自己決定  
権を認めており、厚生労働省、日  
本救急医学会、日本医師会などか  
ら出されている終末期医療のガイ  
ドラインにおいても、リビング・  
ウィルを尊重することが謳われて  
います。

どう書いたらよいか分からない  
と思いますがウェブサイトに  
//square.unin.ac.jp/liv-will/  
(リビング・ウィル 例文)で  
検索するとトップに出ます)に例  
文があります。これをコピーし、  
ご自分なりのリビング・ウィルに  
編集してプリントアウトしてから、  
自署捺印してください。  
皆さんが人生の終末期において、  
自分自身はもつろむこと、家族  
も医療側も迷い苦しむことなく、  
やすらかな最期を迎えるには、元  
気なうちにリビング・ウィルを書  
き残すのがベストです。家族にも  
是非書を残して貰いましょう。  
重い病気や重度の認知症になり、

飲むことも食べることもできなくなれば、普通は静かに息を引きとります。しかし、人工呼吸器を用いたり、胃ろうなどで栄養補給をすれば、心臓が動かかぎり、いつまでも生き続けられます。このような形で無理やり生き続けるのは絶対嫌だと思っておられると思いますが、なかなかそうはいかないのが現実です。



**受入青少年交換学生挨拶**

**(10月8日例会)**

**エドワード・ベンコラスキー**

Oil Tudobem com voce? みなさん、おげんきですか。僕は日本に来て、一か月たちました。日本はこれも楽しいです。このたべものはおいしいです。メニューが大好きです。ブラジルのたべもの、ゆめいぶらさすibchurrascoや

ofiobarです。あなたはブラジルのたべものをたべましたか。いますね。

僕はおしゃべりが好きなので日本語ではなしかけて下さい。僕はバスケットボール部にはいっています。楽しいでも疲れます。

僕はhost familyとたくさんおしゃべりしました。ながのけんのすわこやまなしけんのおぶうばだけです。たびが大好きです。僕をいろんなところ連れてってください。僕はうなぎコーラをのみました。うなぎのあじはしません。

僕は日本語をべんきょうをするでも、かんしのべんきょうはこてもむずかしいね、がんばる。ともだちになりましょう。ポルガル語をおしえますよ。Obrigado! ありがとうです。

**11月12日(木) 例会の案内**

**クラブフォーラム**

**「R財団補助金について」**

**11月19日(木) 例会の案内**

**例会変更**

**11月19日(木) ~ 22日(日)**

**海外例会(香港・深圳)**

**広報委員会**

大澤 伸悟・杉浦 令淑

前田 隆久

\*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。

名古屋大須ロータリークラブの皆さま

2015.10.20 E-mail from



皆さま、こんにちは！お久しぶりです！あっという間に10月も半ば・・・モーリタニアにいたころとは違う理由で、でも毎日と同じようにホントに早く過ぎていきます。1日48時間欲しいです。(中略)先週は秋休みでしたが、ウキウキしていたもつかの間、デューク大学と秋休みの予定がずれていたこともあり、2日休みで週末を合わせて4連休になるはずが、金曜日はデューク大で授業があり、木曜1日だけの秋休みとなりました。しかも!!!秋休み中にオンラインコースの中間試験や他のクラスのレポートや宿題があり、結局普段同様、課題に追われた秋休みとなりました。笑 州のIDカードや免許取得の情報収集に行こうと思っていたのですが・・・冬休みに延期です。本当にすごい量ですよ!!!それぞれがとても興味深いものなので一つ一つにもう少し時間がかけられたらと思いますが残念です。

ロータリーの方は、デューク大のある地域のロータリーは非常に活発に活動をされていてデュークの学生は頻りにロータリーの集まりに参加していますがノースキャロライナ大チャペルヒル側は今のところ特にこちらのフェローを集めての会はなく、ロータリアン主催の物ではなく、デューク・ノースキャロライナ大のロータリーセンターの主催するイベントなどに参加しています。今年フェロー卒業生のイラクからの学生は母子保健学科に就職し、こちらで働いていますが先日、シンポジウムを開催し、エボラや紛争地域、現在話題になっているヨーロッパでの移民・難民などの健康問題を中心とした数多くの講演をアレンジし、講演を聴きに行き参加しました。リベリアの保健省やトルコの移民・難民を受け入れている団体とオンラインセッション、国際赤十字やアメリカの疾病予防管理センターからの講演者の参加があり、実情を知るとも貴重なシンポジウムとなりました。この元フェローはイラク出身のお医者さんですが、クルド人で、クルド地方が現在危険地域となっているため、帰国は望ましくなく、現在こちらで働いていらっしゃいますが、世界の緊急医療などに大学などがどうかかわって行けるか、ということにも重点を置きながらこれからも様々な「現地の声」をノースキャロライナ大の学生たちが聴ける機会を設けて行きたいそうです。国際赤十字、国境なき医師団、国連、地域や国際NGOなどのこれまでの経験から本当にたくさんの興味深い話をいつも聞かせてくれます。日本の赤十字の方たちとも長く働いた経験があり大変な親日家でもあります！



また、紛争解決・平和に関するロータリーセンター主催の映画会が月に一回ぐらい開催され、初回では国境なき医師団のドキュメンタリー映画を観てきました。一年上のフェローで私のパディー(世話役??)でもあるコンゴ(民)出身のお医者さんはコンゴにて国境なき医師団と2年間仕事をしていたため、彼の経験談の講演もあり、こちらも大変貴重な映画会となりました。

(続きは次号以降に掲載致します。)

澤屋 奈津子